

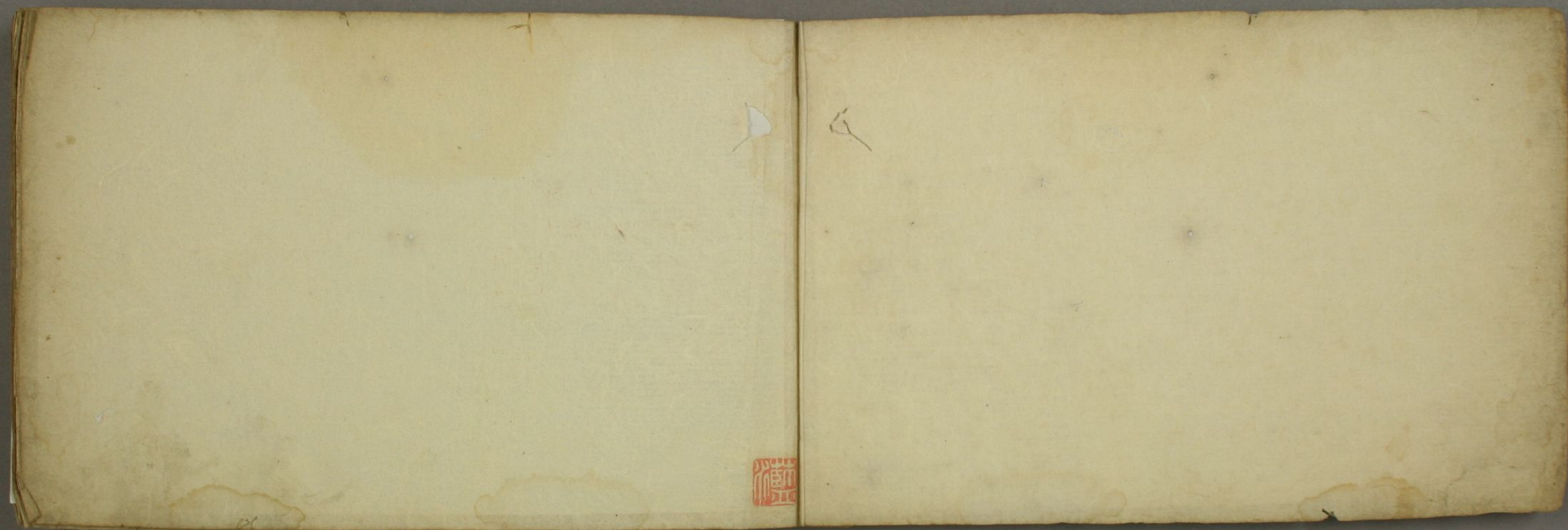


誹諧秘傳書

中村俊定文庫  
文庫 18  
309









誹諧傳書序語



一杯方和歌は阿也也訓一  
 和朝は世々之了のあはよ  
 していふはくは始をけり  
 去るは世と神代の御奇は  
 文もも定うは奇はやふも  
 何して是はふしけふは  
 あはよのはあよしては  
 此たのそふを世にふきた  
 一頁とこりし一頁しよ定  
 んと丑義よふり海は派と  
 たふを母は海の物く



つらねを種代くめく  
くはみそ是あり

和歌之體 清浦真儀抄

長歌 百首集より

短歌 三十一字

旋頭歌 五字の介又二句ヲ加フ胸  
暗終五も七も任ス意

混本歌 五字の内二句と又七も七もと  
又五も七もと又七も七もと

折句 以五字ヲ句毎之上ニ立

沓冠 以十字ヲ句毎ノ下ニ配

次分ラリ

旋頭歌

君が子けの山乃の系は

いら神可月

去れしの雨了

深なるあり

混本歌

かくちをよまひけたれ

あは音の

けなむ

けぬへ

折句 牡若

のこりも

まじおは

つらしは

もくしねた

たは行は



當冠

ニホレサヤシホ  
等言ナトニホレ  
カホトホト

いさく乃ほしむ

いさねいさね

いさねいさね

いさねいさね

古今集詠諧

梅乃名ふよふさつれき乃

玉もくといといもた

蜂風よほらびゆしゆも

はまきせふまき

詠諧 州句

櫻

さくらさくら

日 當冠

鞋

五儀

偏席題曲流

偏、人との真向よあむける

席、いさねいさねの玉

題、其亭主をさねのまゝ

曲、其美いさねいさね

流、いさねいさね

偏席題の二、いさねいさね

曲流の二、いさねいさね



流のうら

春過て偏 夏に序

白州乃題

夜は曲 河津の山 流

かきよこに編序も世流や  
流せよかし河津とすしとく  
上の編序もつあつて下の  
世流もあつて又下の編序も  
乃心つて上の世流も  
つと編序もあつて  
世流もあつて

流のうら

一きよ哉

一のあまの  
上をたてよ  
是はよ  
云のうた

又序もあつて

都はやくや  
はやくも  
是はあ  
く序もあ

六儀

古乃序もあつて  
むら



有るに云はしむるに云はしむるに  
久しき物も此の如き人牙  
之れが世をさへかたむけ  
多しと云ふは流し流しに  
世間此の如き人牙  
今に云はしむるに云はしむるに  
世に云はしむるに云はしむるに  
多しと云ふは流し流しに  
世間此の如き人牙  
今に云はしむるに云はしむるに  
世に云はしむるに云はしむるに

美神乃尊と教へ侍  
貞徳

一風 一風 一風

一天は神の衣下は神の衣  
女は神の衣下は神の衣

一賦 物と云ふは神の衣

あるに云はしむるに云はしむるに  
世に云はしむるに云はしむるに

貞徳

三比 物と云ふは神の衣  
切杭の御衣の衣下は



下は之を所書事好の月

四真福云

物だとも思方新くもなる  
古方とリくもなる

皆人の登るの程不詳の月 貞徳

木の塔は川流しありて固 貞山

貞山

五雅新云

物中にも人なりたるも  
世に真方新くもなる  
又之を登る程乃く新り  
あはれと初くもなる  
まじりたるもなる  
くまらぬ新く

方深なりし書もせよの月 貞徳

何れもなるも新くもなる 貞山

貞山

六頌新云

子と若きし仲よなる

又後頌なりし方是歳旦之

鳳凰も出よのけし西の月 貞徳

君うばは谷山海近川は本云 貞山

貞山

右六美我の月新福と名もなる

まじりし詩を連部もなる

今よ代しうれもなる

連歌乃けしは

景行天皇十二年日本武尊東  
夷征伐之御取甲斐国酒折之

宮ニシテ



あちばくをこりて  
いくよつねつた

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむし

あまのつとむしは宮せ  
いぬはつとむし

とこふかふは二宮とて  
二神めて同音詠がふと各神祕  
連歌乃つとむし

人乃代とぬり、業を辨治は  
あふ下のつとむしあまのつとむし  
つとむしは宮せと信いませ  
あまのつとむしは宮せ

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ

あまのつとむしは宮せ  
あまのつとむしは宮せ



清水庵後の中は連歌なり  
うらまはれしうらまはれし  
のりくやうきい連歌と  
ふ何れもつゝあきらむといふ  
やうして徳吉のまよき  
あはれする子清水庵後  
事い浦守乃道いし子不  
連歌并俳諧は即先んじて  
わがしゆのやうきい

今のがいはるゝ部  
千代川の千代流小舟  
かやうは俳諧のゆゑと  
あらゆゑはわがまゝに

連歌は自然と俳諧はききて  
よやくとねと二條大園松山  
云九條流門松山のゆゑに  
早のりゆゑに高野を連歌  
の風流なれん事末学の類  
いりてはれしうらまはれし  
其時高野と云ひて連歌乃  
あはれりし系山山宗徳  
則長友の徳吉守成女  
字といひ連歌の元功者  
連歌のうらまはれし  
いりてはれしうらまはれし



撰一冊として連歌の集好集子  
たりとて大集時集と号して  
板敷にけりまはるるなるを  
連歌功者の句にけりては連飛  
乃とらるるさるる老あんなり  
は集りたりけり信しあをせん  
なり是を今と辨治とも和号  
此辨治は地下の乃ありけり  
以上は集りてし勅定とて  
けりまはるる世の用なりけり  
事なりとて集りてしは  
帝はしはるるけりけり  
切しけりてしけりてし例高を

古今集のてしを連歌あり  
連飛のりてしを連飛  
地下の歌よりしは民のや  
けりまはるるけりまはるる  
西乃まはるるてしは連飛  
あはるる字なりけり地下  
撰一として勅定とてしは  
天子人とは堂上方の句に  
連飛とての呼しは地下あり  
けりまはるるけりまはるる  
ありまはるる細川幽舟言旨は  
送井松永自他とてしは  
地下よりてしは堂上方(御)て











兼應二發己十月十日

八十三歳ニテ卒

貞徳妙心居士

墓所有山城国下羽川實相寺

起兼轉合之事

一起兼轉合ハ初ル所定也ト仰  
の連ル所武法ハ初ル事ハ之  
答速<sup>ク</sup>返<sup>ル</sup>侍<sup>ノ</sup>言<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>  
知<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>知<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>知<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>知<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>

いそ<sup>ク</sup>相<sup>ノ</sup>侍<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>

滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>

滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>滑<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>

若<sup>ク</sup>夜<sup>ノ</sup>王<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
七<sup>ノ</sup>賢<sup>ノ</sup>達<sup>ノ</sup>所<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>



是吐是相法いりし奥中  
しりえいしりし 権史あり  
由利は用

此陶乃名と滑絶音とよ之

誹諧之連歌句意

起 ハ氣ニ  
季ニ

發句なりし其時言とたふ  
ある處如くまへしりりし  
古事今事いれられたるを  
短ふことちをちやうまを  
つらるとしりしとちり白偏  
句くちまをちさうやうま  
いしはしりしとちり

兼 正ニ  
祥ニ

獨發句のふとちりしりし  
みまののちまをちさうやう  
まはまをちりりしとちり  
但し後生述とちり多たふ  
三月の季ま正二月の季とちり

正し三月の季ま  
まへしりし又三月の季  
季まはまをちりしとちり  
しりしとちり

中夜 甚雨 驟 暗  
赤川春あらししりしとちり  
但し後生述とちり多たふ

轉 泰ニ  
天ニ

ウタ、カエリニ  
メクニ、アキラカ  
ヒラ、カワル  
展  
中三つ發句、振句しとちり  
ちりりしとちりしりしとちり  
たけりしとちりしりしとちり  
是はちりしとちりしりしとちり  
は傳の上は定まへし  
但し後生述とちり多たふ

合

初春はまへしりしとちり  
古物はちりしりしとちり  
不ちりしりしとちりしりしとちり  
口傳







一 脇ておん為す人々 只傳  
一 才之文を為す人々 只傳

上此句を為す押入字

上此句を為す押入字

一 句の中けておんを解く  
外口傳

各句を為す

一 現此し句の中より為す句

一 年此ねら申より為す句

一 一や、何いづくつま 此乃

一 一多ふ此句を為す句

一 下此此句を為す句

下此の句を向、除ヶ 指セ

立テ 遊メ せし 昔の人より  
一 一しりあ何し

はかろふよ此能くよりて此と  
るよりある者 口傳

各句也 捨は傳子明し

三 返切 三名切

目子あり山降し 初録

大廻し

あぢとくとま日けく 玉塔

と

名候がねあもち方々石所

十八てあえ

雨晴し好なりと 初録

二 字切











心云ハ不何字

録付しきまかり系の松枝  
糸をとりまきといひ一人と  
云ふ事向ふとて其の醉  
由玉のと結成病乃をさす  
くすけし病の神の因小  
若病の根此葉もまの根  
明も候しかりもの神  
若病の根此葉もまの根

口傳

現在 是  
未生 氣

魂魄  
魄

遺云 無明

以上

各口傳

素秋素素此并

春

三月ヨリ六月迄  
内事の時をさす

秋

三月ヨリ六月迄  
月事の時をさす  
素秋と云ふ連御座小

口傳

一和歌ハ唯一神の祖神と云  
雲と云ふまは令新湯り  
して之射りて神と云は  
あり信し事なりとも云  
くすけし



緯ハ分岐法所シテ七月朔ヨリ  
佛ハ系後夏カシ秋陽欠  
弟亦夏後於テ終ニ信ニ雖  
亦斗と雖小然多月ハ之生  
玄界ヨリ支有シ地球ヨリ  
日ハ映テ月ト然是陰中ハ  
陽後夏ニ命ハ月ト之後夏  
あり之ハあり

陰中ハ陽後夏カ事

唯ハあり

以上

行ハあり月カ事

一定カ月期ハあり之ハ  
好求トスルハありナリ  
ト月ハ白カキ其ト相多同  
字カトありク之ハ是ハ明カ  
トハ也ト月カ事

以上

考カリ更ニ小山カ月  
降カレテハハ然カ

以上

地球月 但花ハあり

以上

一月系ハ系内中一陰陽カ事  
ハハハハハハハハハハハハ



ともしやなうて空うも月  
口舌とほやうとあしはれに  
えんをたていし

昔月三つ所中一重根乃行  
道二而たりしやうとて  
所二玉地をかりしとて  
なていし花々のことし  
信二

ふじのふたもあつた  
まゆみかたあつた

功上

上は白くし  
留

川白

白のいなりふちふと  
主福

ゆをいなりふちふと  
主福

字傳云二の中よこ下カケ  
トカおるふと一しやうと云  
ゆつつかの傳をいし  
つて方いなりふちあつた  
海内はかた白くた

師之云有傳不可也不可用

ふんふんしてまうとて  
糸はゆりてうらな  
垢垢は何の人と  
魔を

思ふに浦より生れく白の  
宮をたてては宮に







山側へ依りて此の山  
嶺と一峰と成りしむる所  
たれ少く連歌ありて  
此の山と云ふは七の山也

山里磯居所 蟻野老 墓

山崎 磯居所

川口

嶺の山を望みし  
亦古里に梅咲らば

東に廿のりありて  
庭の梅と雲はいしき

又云

嶺の山を望みし  
亦古里に梅咲らば

山崎 磯居所

此の山と云ふは七の山也

山崎 磯居所

嶺の山を望みし

山崎 磯居所

山崎 磯居所

山崎 磯居所



櫻鯛  
櫻鮎  
櫻苔

のじりかた

依、根のある正あまの似物  
此極なりともし海か

以上一十帖

マ十体

中乃のや

山里下  
海の中

をり、二石松よきと信りん

り、  
石所原のふし様

類比や

自然はあやまる根のふりん

腰のや

いりもるあはれん

苔のや

更々道月と足よる松打

孫のや

風より麦は二葉のあはれん

十乃のや

あふやと根のたねと似て

海あやと根は日比りやと

とくしや

ふしをいして



指書、傍欄、と名所の紙外

口名所

月、と名所の紙外

と

今、と名所の紙外

と、と名所の紙外

切字、  
早、  
切字、  
早、  
切字、  
早、

後、と名所の紙外

名所、と名所の紙外

山、と名所の紙外

右、と名所の紙外

と

廿六休

治定の紙

月、と名所の紙外

業、と名所の紙外

紙、と名所の紙外

二、と名所の紙外

二、と名所の紙外

紙、と名所の紙外

せ、と名所の紙外

千、と名所の紙外

是、と名所の紙外



く外

白濁の雷玉里いゝ外

る外

林一さいんく序も後が

む外

象の橋やし師外

のやい成りて少ん物く  
四十八体皆文字のなり  
かちく

星と浮作とも云

文字如訓出ス

雲クモ

海ウミ

海ウミ

盛シメ

白シロ

照テル

光ヒカリ

恨ウレシ

思オモフ

宿ヤド

別ワケ

教オシエ

揮ウラハス

爪ツメ

雲クモ

途ミチ

昭アカリ

枚ハシ

の女文字の形より浮作  
のやい成りて少ん物く  
四十八体とも云

是又字の体用少ももらつ

能くもあましく

又所哉とて一向非之也

こらあし一気

爪とて指は牡丹の輪と外

點は細とつりて人川へか

思もくも都の花と外

の女とてあし二字をへて



其の上はきて二のなかや  
名は母は下  
不上

の同音

皆古と申も二子て雅の海  
新くと申もたぐ雪の同

此下又又の二字の同  
の一字たるも也

二字の同の同字は口傳者別

文字重

多し字あるは徳と古時刑  
及りせは誤も破れ山極

賊物事

一賊物事連字より常用は  
漢の凡為侍之是名賊下云  
初朝は漢古以賊也是として  
身仙<sup>并</sup>一と負毎の直賊物事  
連句は近代連字もなる也  
るは賊物

賊何連字 懐孤は端は也

何より小字上云 上賊下云

何より小字下云 下賊下云

其會之類より事

連類は五ヶの賊物と初はなす

山路木 船人は是也



是皆神の号也似たり口傳  
七か諸神の名を考ふに代りて  
此字と考ふに小紙ゆゑ是云

五ヶ之賦物歌

山ハ伊勢 路ハ住吉 木春日  
船ハ藤原 人ハ人丸

ウの神を子息して紙此  
又字よ玉事也

長頭唐之云子母ありし能治ハ  
能治れん包しは星の會可し  
花柳治之連芳月の發句可し  
月能治之連芳し塔作りし徳  
金ハ心乃乃席ハ能治之連芳  
之の字ハ不徳也即ち流り

能治ハ賊也亦正保二年  
丙辰三月十七日於此頃定之  
中ハ金ハハ  
係子之代能治ハ賊也能治ハ  
ハ能治ハ能治ハ能治ハ能治ハ

上ハ賊下タ賊其外

一字五所ハ

梅ハ香ハ雨ハアハ名ハハハハ

二字五音

為ハ子ハ凡ハらハくハ斗ハてハ能ハ治ハ

三字中略

内表ハ也善者ハハハハハハハ

三字下略

月ハハハハハハハハハハハハ



つひにふくは宮深きなる事

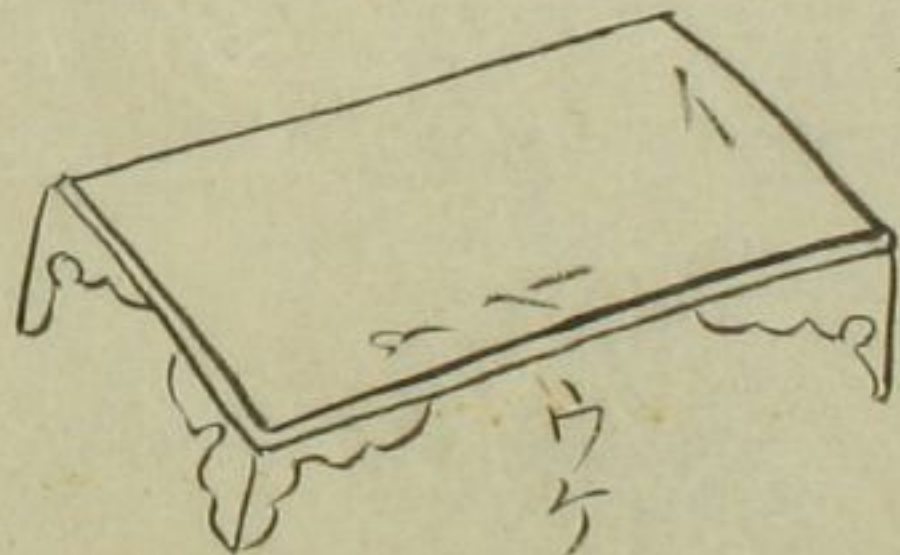
三字及考とるる

裡徘徊の康子と方又は  
徳乃其ぬふこケ取進くの  
いしゝる多しとる事あり  
あはれん祖師とるる事あり  
中道ハハ

以上

文庫才法口要

長 一尺九寸七分  
巾 一尺一寸六分  
高 三寸九分



是ハ宮上乃抑又差法寸法  
なるは地トテハ寸尺邊ハ  
可也

兼延 齋院 金物  
好ハ下リハ少ナク

徳安之寺二月廿七日

二條右衛門殿ニ齊法取

定之周河、侍法小

○良基公也

小留三母地事

引白

現正

晴初之報之在踪儀 4



未斗

深山乃生いとれらも待を丹

遺を

出金小さくふ此處と解醒丹

とくしりりし之を方者  
此處よりし之のくしりり  
今成入し行中又方之丹  
つれ事要し方之は之に  
才三過左、未斗、此處の位

て少く留るる

一視潜の連音と透い上乃句  
之り一その下の句之り一それして  
長句し短句し独立と事要と  
すはく句は為よ味多し

て少くせんハ二句為り、この地こ  
傳授せさうて少くするはと  
と今、この傳授の人も生  
此處、馬注物をし、此處不  
下化

後句

口傳

苗人の馬りけれた、男あり  
立たへん、肩もなも花、せん  
ま、動り足者、けり少、獨り

又

脚、山の湯の湯、の湯、紫子  
ふ、朝し、若と、さう、八、梅、り、介  
朝、朝、初、も、梅、も、水、川、つ、た



何れもしやと書上スルを

口変 通

くしし賜

あ局

多神の神より酒の樽子  
母の芝より月ま上ま

して局

ふもれありくい浮うかして

ア乃いいとくとの戒かいととおし

又也局

行徒のふりり借かををははり  
池乃造つよ本のの葉はくくたる

かし局

きのあはるもりああああ

の局

中なるは書くを水のやとの

又也局ハウクスウママムムルル  
てあしとんああののままりりを  
おるハあてるハハととりり押

ナ書よむと品よりああ解かをを

あしと角くの押字今を

事事に中一四一文字文ののししくく

何何くくの押字押よりりままりり不不目

中なるこ

口変

押押字字ハハ一一に  
いいなりりああももる

あらぬの裏よりああらぬの  
柳の川川ねねとといいふ



ウのい名しめし不る

偏序題曲流可秘

### 中三文字留

一 傳祖師創り秘爲せけり  
 中興とせ成爲る守  
 するて此所の以て出也言  
 中此部まよひしとき  
 かし〜漢してた乃おつ  
 仰くぬの事と深くいふ  
 方便と云ふ三の負字あり  
 一は所は号して口出と  
 之後不足し〜と云ふ  
 負字ありと云ふハ

負字留と云ふ名あり

一 和字ハ漢字と用は源也  
 此より之字書皆似たり  
 連那是よはつと事あり  
 連那ハ和漢ハ法と連那子  
 方ハと免すハ和朝の如侍  
 ありと云ふハ情物乃あり  
 依ハ漢字と云ふ事也

起句 ● 發句 一仄

漢和法 兼句 ○ 賜入韻 平

轉句 ● 第三 兩韻

ウの漢和ありと云ふ事ハ人ト云  
 ありと云ふハ負字留トハ  
 傳と云ふト云ふ便也







蝸牛 茶調虫 金龜虫

秋

蟋蟀 筆津虫 秋津虫

二季鳥 紅葉鳥 響虫

冬

鷹 羽喰鳥 鳩

一解なる法にして正名は解所  
しつゝの所是なるは若  
くは傳

何れも方ハ四季ノ正名ハ  
方ハ方ハ此れ也ハ正名ハ  
よ方ケても方ハ方ハ

方ハ方ハ四季ノ正名ハ  
方ハ方ハ此れ也ハ正名ハ  
よ方ケても方ハ方ハ

方ハ正名ハ方ハ方ハ  
方ハ方ハ此れ也ハ正名ハ  
よ方ケても方ハ方ハ

方ハ方ハ方ハ方ハ

方ハ方ハ方ハ方ハ

方ハ方ハ方ハ方ハ

又 方ハ方ハ方ハ方ハ



各況其のきしりふあり  
行きても名しりかき

又 一 一 一 一 一  
従しき 従しき

各取ぎとふあなり字は  
去りて正字あつたりし  
なりき

又 一 一 一 一 一  
彦 彦 彦 彦 彦

あはれ字

あはれ字

あはれ字

各取なり字 三句をこ

文字能乃事

一上の句ハ 上文字 三三解

月ハ 一ハ 押英

一中七文字 三五五三解

一下五文字 一解 是解

あはれ字の 信方

あはれ字の 信方

あはれ字の 信方

文字能乃事 白れ條

甘の五文字 白れ條

身はねの五文字 白れ條

取寄安と云







廿九日 卯 乃 名 名 名

古代の儒者の説に物乃花  
名物も年花鑑皆雅此  
正名ありし物ありし  
似て内乃正名皆去乃正名  
植物より内乃正名  
以て定是はしはしはし  
其の名はあり正名あり

解よ正名消す

一花の定まる物ありし  
たはしはし物の正名を  
名物 花年 玉うし  
も物 名 心 心うし

又

解二のより正名ありし  
物ありし物ありし正名  
ありし

花大 花大

物ありし物ありし  
解の正名のありし  
名物は物ありし  
名物は物ありし  
名物は物ありし  
名物は物ありし

一正名ありし物ありし  
似て物ありし正名ありし

但し名物ありし  
條花 名物の名 物ありし



世の正名といふもすべし

物干よ花葉浦の夕涼

一みよ切りの心と成りしは

乃正名とすべし

みよ正名ハ

蹄花 條茶 茶足袋

世の正名といふもすべし

玉屑 膝と云ふもすべし

わらわとすべし

一物の正名といふもすべし

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑 玉屑 玉屑

玉屑



神祇傳

幼童情如神

無智者似聖

知不行天罰

不知不天罰

神祇傳の奉納紙云々

水戸の神祇傳

水戸の神祇傳

連年

水戸の神祇傳



廿四日此長月張がゆふ

夏の日ふくやぬれ長谷の松

應安年中神祇秘傳改

奉納親傳 口授

神祇傳文等して後白紙

所よりし傳の略すゝて

すゝて

後白

かゝりし神樂のやぐ夕月秋

三ツ物

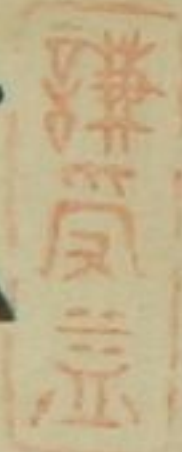
長より是の傳は之を梅の家

幣々々といふ事なり

長閑なる友の情もいふ

以上 各口傳





太一書頁德高師

多子為一書心少心

小一書心子子子

只變半代是化之

御情可朱林

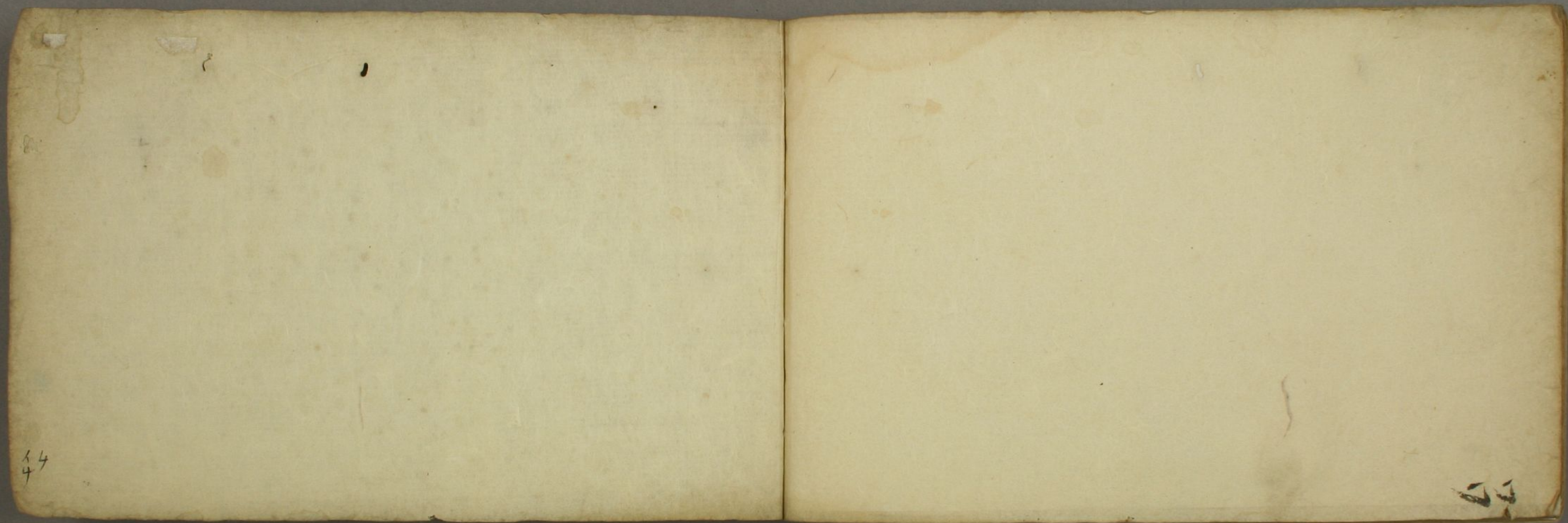
寬延三年二月

長尾

芦岡雅伯







44

44



